

## 個票 4 山付き部の地形・樹林保全 [河 1(1)①1-4]

(2010年作成)

配慮の視点	生態系の多様性への配慮	配慮項目	生き物の生息・生育空間となる多様な自然とそのつながりの保全・創出
配慮事項	生物の生息・生育空間の広さ・形状の確保・適正化		
配慮事例	治水面と生物面に配慮した地形・植生変化に当たっての可能な限りの現地形の維持・復元・創出		
内容	<p>● <b>山付き部の地形・樹林保全</b></p> <p><b>【解説】</b> 崖線や斜面樹林が河川と接している山付部は、魚付林としての効果が高く、周辺の自然環境の空間的な連続性も高い地域です。水域では深い淵が形成されていることが多く、これらの環境を利用している魚類も多いため、これらの環境に配慮することで、生物多様性の向上につながります。</p> <p><b>【具体的な工法・配慮事項】</b></p> <p>① 山付き部は極力改変しないことが重要です。 ② 特に河畔林の張り出しが重要な働きをするため、極力保全することが望まれます。</p> <p><b>【事例】</b></p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p><b>【場所】</b> 神奈川県横浜市梅田川</p> <p><b>【環境配慮の内容と方法、工法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山付部の管理用通路の整備を取りやめ、斜面林と川との連続性を保全回復した。</li> <li>右岸山付部は計画上の河積を確保するために掘削しているが、斜面の地形（等高線）にあわせた。</li> <li>斜面林との連続性を回復するために山付部の護岸は蛇籠（覆土）とし、植生が回復するようにした。</li> </ul> </div> </div> <p style="margin-top: 10px;"><b>施工前 1992</b></p>  <p><b>施工後 2007</b></p> <p>出典: 2</p>		
	留意点	<p>・ やむなく掘削する場合も、地形の起伏を持たせるよう配慮する。</p>	
参考資料	<p>1 「中小河川における多自然型川づくりー河道計画の基礎技術ー」 リバーフロント整備センター</p> <p>2 「多自然川づくり参考事例集」 リバーフロント整備センター</p>		